CLOSEUP

岩手力！

優良受注企業紹介

株式会社小林機械

世界最高水準を支える半導体、FPD製造装置の部品製造メーカー

小林機械（本社・奥州市）は、半導体やフラットパネルディスプレイ（FPD）を製造する装置の部品の製造と組立を行っている。クリーンルーム設置や大型加工専門工場の新設、それに伴う最新大型加工機械の導入などでお客様の最新ニーズにも積極的に対応し、大きな信頼をかち得ている。

奥州市前沢区の本杉工業団地内に建設された本杉工場内の大型加工機械「横中ぐり盤」。同工場は、工場面積1320平方メートルの広さを持ち、総計で約7億円を投資した大型加工機械（門型マシニングセンター、横中ぐり盤等）を整備。半導体製造装置のほかにFPD製造装置、真空チャンバーなどの大型精密部品加工を行い、高い生産性と高い精度を実現している

▲本杉工場で生産している大型精密部品の「真空チャンバー」。液晶のフラットパネルディスプレイを製造する装置で、高精度が求められる

世界的メーカーから高い信頼を得る

同社の主要取引先は、東京エレクトロン東北（本社・奥州市）、東京エレクトロンAT（宮城事業所、山梨事業所）、アルバック東北（本社・八戸市）などだ。

東京エレクトロン東北は、半導体の熱処理成膜装置の製造で世界のナンバー1シェアメーカーとして知られる。東京エレクトロンATは、半導体製造装置に加え、FPD製造装置の開発・製造にも進出している。アルバック東北は、パソコンや液晶テレビのディスプレイ生産を担う大型基板FPD用製造装置の生産を行っている。

小林機械は、これら世界的メーカーから部品の製造や組立を受注。世界最高水準の高い技術力を誇る各社から、厚い信頼を得ている。その信頼の基にあるのは、同社が築きあげてきた、ものづくりの誇りをもって日々の仕事に取り組む姿勢と、クリーンルームや新工場建設など、高品質の製品づくりを実現する設備と生産体制にある。

同社はもともと、金型の加工業からスタートした。現社長小林康行氏（58）の父親が73年、埼玉県鳩ケ谷市に会社を設立。

当時、日本鋼管の社員だった小林社長も、父親の仕事を支援。その後、会社を辞め、一橋大学の大学院を経て80年、30歳で小林機械に入社した。

「会社は10人規模の零細企業。私もフライス盤を使って作業していました」

33歳のとき、小林社長は、大学の先輩で受注先の、ある会社の重役に言われた。

「この先どうするんだ？ものづくりで生きていくんだったら、まず分野をしっかり確立しろ。それと、都心部でやっていたら、いつまでたっても3次下請けで先行きは見え

▲本社工場でマシニングセンターを操作する女性社員。女性らしい細やかな気配りや配慮は、高精度部品加工において大きな武器となる。本社工場となりにはクリーンルーム（720㎡）が設備され、空気中の浮遊粒子の数で判断する清浄度基準で、クラス3000（稼働時）とクラス50（稼働時以外）という高いレベルの清浄環境を達成している

▲本社工場での作業工程の打ち合わせ。
先輩社員から後輩への指導体制も確立されている

▲加工後の最終仕上げ。最後まで神経を注ぎ、洗浄を行う

ない。それよりも、もっと設備が広げられて、若い人材を集められるところで、もう一回態勢を作り直したほうがいい」

小林社長は先輩の助言に従い、新天地を求めることにした。いくつか候補地を探し、条件が合ったのが前沢町（現奥州市前沢区）だった。89年、誘致企業として現本社のある場所に工場を設立した。

ワゴン車に寝泊まりしての営業まわりからスタート

小林機械の前沢工場は小林社長と現地採用の２人、合わせて３人でスタートした。設備は汎用の機械が２台。金型分野を広げようとしたが、すぐに壁にぶつかった。

「金型関係につきものの、熱処理などの処理屋さんが岩手では当時、系列化されていて、お願いにいってもなかなか思うように処理してもらえなかった」

小林社長は局面の打開に動き出す。どんな仕事でも取ろうと営業まわりに出た。

「ワゴン車を買って、東北６県の工業団地をまわりながら飛び込みで営業して歩きました。泊まる場所がないところでは、寝袋にくるまって寝ました。冬場は寒いのでワンカップのお酒を飲んだりしてね」

だが、なかなか仕事を受注できなかった。人員と設備について答えると、相手はそれから先に話を進めるのを止めた。

今につながるチャンスは突然にやって来た。江刺の東京エレクトロン東北に飛び込んだときに一枚の図面と材料を渡されて言われた。

「これを明日までに作ってほしい」

小林社長は飛んで帰ると、徹夜で仕事をやり遂げ、翌日約束を果たした。それは半導体製造装置関連の小さな治工具だった。

これをきっかけに、小林社長は東京エレクトロン東北から少しずつ仕事を受注するようになった。

工場開設２年目には、いわて産業振興センター（当時は県中小企業振興公社）の設備貸与制度を活用し、マシニングセンターを１台導入した。

「それが、センターさんとのお付き合いの最初でした。この機械を入れてから、相手側の対応も変わってきました。少し小林を鍛えてやろうか、となった。それからは仕事の分野も、どんどん変わってきて、それが今につながったんですね」

現在、同社は半導体と液晶分野に的を絞り、より信頼性の高い、より付加価値の高い製品づくりに取り組んでいる。また、産業振興センターからの情報を活用したり、商談会にもよく参加している。

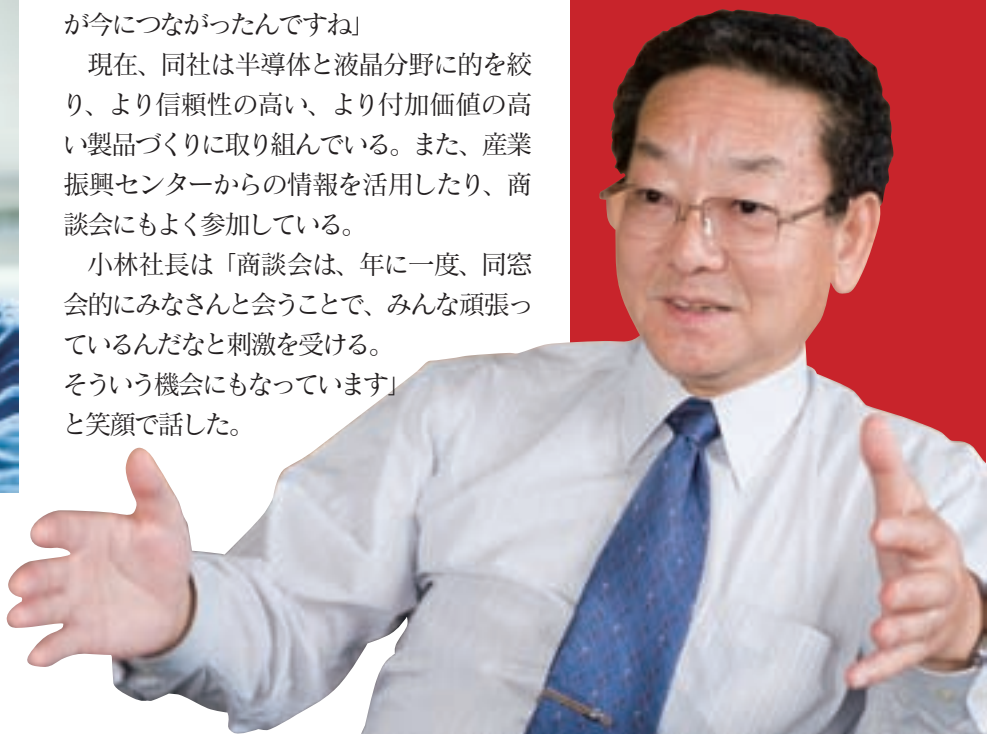
小林社長は「商談会は、年に一度、同窓会的にみなさんと会うことで、みんな頑張っているんだなと刺激を受ける。
そういう機会にもなっています」
と笑顔で話した。

▲コンピューターの画面に映し出された設計図面を確認

企業概要

●設　　立　1973年8月
●代表取締役　小林康行
●資　本　金　6600万円
●所　在　地
〔本社・工場〕
岩手県奥州市前沢区字養ケ森44-32
電話　0197-56-4205（代）
〔本杉工場（製造部門）〕
岩手県奥州市前沢区字五合田19-4
電話　0197-56-8823
〔鳩ケ谷工場（製造部門）〕
埼玉県鳩ケ谷市里475-4
電話　0182-84-3780
他に宮城県・大和工場（製造・組立部門）、厚木（設計部門）、戸田（組立部門）に拠点を置く。
●従業員数　160名
（男125名、女35名）

URL　http://kobayasi-m.com/

今月の表紙／小林機械本社工場（前沢区）で働く若い力。（左から）瀬川翔太さん（20）、千葉竜一郎さん（21）、吉田佳嗣さん（20）、佐藤究さん（21）、浅理勇介さん（20）。「難しい形状のものをうまく作って成功したときに充実感を感じます」（浅理さん）。「20歳前後の社員が20人くらいいて、野球とかボウリングなどでよく遊んだりしています。毎年11月の社員旅行が楽しみですね」（佐藤さん）

小林康行代表取締役
1950年、東京都荒川区出身。
早稲田大学理工学部卒業後、日本鋼管に就職。日本鋼管時代に父親が創業した小林機械に出資。3年後に日本鋼管を退社し、一橋大学大学院に入学。同大学院経済学研究科博士課程修了。80年、小林機械に入社。89年、誘致企業として岩手に。早大で4年間、日本鋼管で1年間はバレーボールに打ち込み、早大時代は入学時の4部から卒業時は1部に昇格。大学時代、大学院時代の豊富な人脈を経営に生かしている。